

Economic Indicators

発表日: 2021年10月20日(水)

貿易統計(2021年9月)

～自動車輸出の大幅減で、輸出の下振れが続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		原数値	季調値	輸出金額	輸入金額	前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比		前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	
20年	9月	6,674	5,779	▲ 4.9	▲ 17.1	▲ 7.7	▲ 6.1	▲ 23.2	▲ 3.7	▲ 8.1	▲ 16.4	▲ 3.3	▲ 7.4
	10月	8,582	5,882	▲ 0.2	▲ 13.1	▲ 1.7	0.7	▲ 10.9	2.8	▲ 5.4	▲ 21.4	▲ 8.3	▲ 2.5
	11月	3,558	7,339	▲ 4.2	▲ 11.0	▲ 4.0	▲ 2.6	▲ 9.7	▲ 4.4	▲ 2.0	▲ 19.2	▲ 12.9	4.7
	12月	7,447	8,010	2.0	▲ 11.5	▲ 0.1	▲ 3.3	▲ 18.3	5.1	▲ 1.9	▲ 22.7	▲ 0.9	2.0
21年	1月	▲ 3,272	6,125	6.4	▲ 9.5	5.4	▲ 8.7	▲ 26.1	18.4	▲ 4.1	▲ 10.5	▲ 10.8	▲ 2.9
	2月	2,117	290	▲ 4.5	11.9	▲ 4.4	▲ 16.4	▲ 23.8	▲ 0.2	21.9	▲ 7.9	1.6	43.8
	3月	6,578	3,164	16.1	5.8	12.6	3.9	▲ 6.9	20.4	3.8	▲ 0.7	9.1	8.5
	4月	2,488	870	38.0	12.9	28.5	37.8	12.7	23.0	1.2	▲ 4.8	5.7	4.5
	5月	▲ 1,934	▲ 179	49.6	28.0	38.6	77.6	38.8	21.6	6.8	5.1	23.7	7.1
	6月	3,789	▲ 1,537	48.6	32.8	37.3	79.7	25.8	26.1	8.2	9.2	27.2	8.7
	7月	4,358	▲ 508	37.0	28.6	25.2	19.4	39.9	20.4	2.0	2.3	0.3	4.6
	8月	▲ 6,372	▲ 3,367	26.2	44.7	13.7	13.2	30.2	11.1	14.4	12.5	28.1	13.2
	9月	▲ 6,228	▲ 6,248	13.0	38.6	3.3	▲ 9.8	18.6	9.1	7.6	17.1	6.4	6.8

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○自動車輸出の大幅減が続き、貿易収支は赤字推移

財務省より発表された9月の貿易統計によると、貿易収支は▲6,228億円の赤字(コンセンサス: ▲4,842億円、レンジ: ▲9,142億円～+6,125億円)となり、2カ月連続での赤字推移となった。輸出金額は前年比+13.0%(コンセンサス: +10.5%、レンジ: +6.7%～+19.0%)、輸入金額は同+38.6%(コンセンサス: +34.4%、レンジ: +27.6%～+41.8%)となった。部品調達難を背景に9月も大幅減産が続いた自動車輸出が、対前年比▲40.3%もの大幅低下となったことで、輸出全体を大きく下押しした。輸入については、原油価格上昇やワクチン確保等により、前年比で高い伸びが続いている。季節調整値では、輸出金額が前月比▲3.9%、輸入金額が同+0.2%となり、貿易収支は▲6,248億円と赤字幅が拡大した。

○7-9月期の実質輸出は前期比マイナスへ

為替などの価格変動の影響を除いた9月の実質輸出は、前月比▲6.1%(8月: 同▲2.0%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)と、先月からマイナス幅を拡大させた。

7-9月期の実質輸出は前期比▲4.5%となり、コロナ影響により大幅に落ち込んだ20年4-6月期から5四半期ぶりの前期比マイナスとなった。部品不足による減産の影響により8月、9月は自動車輸出が急減速したことで、輸送用機器が前期比▲13.5%(寄与度: ▲0.71%pt)となったことが、実質輸出を

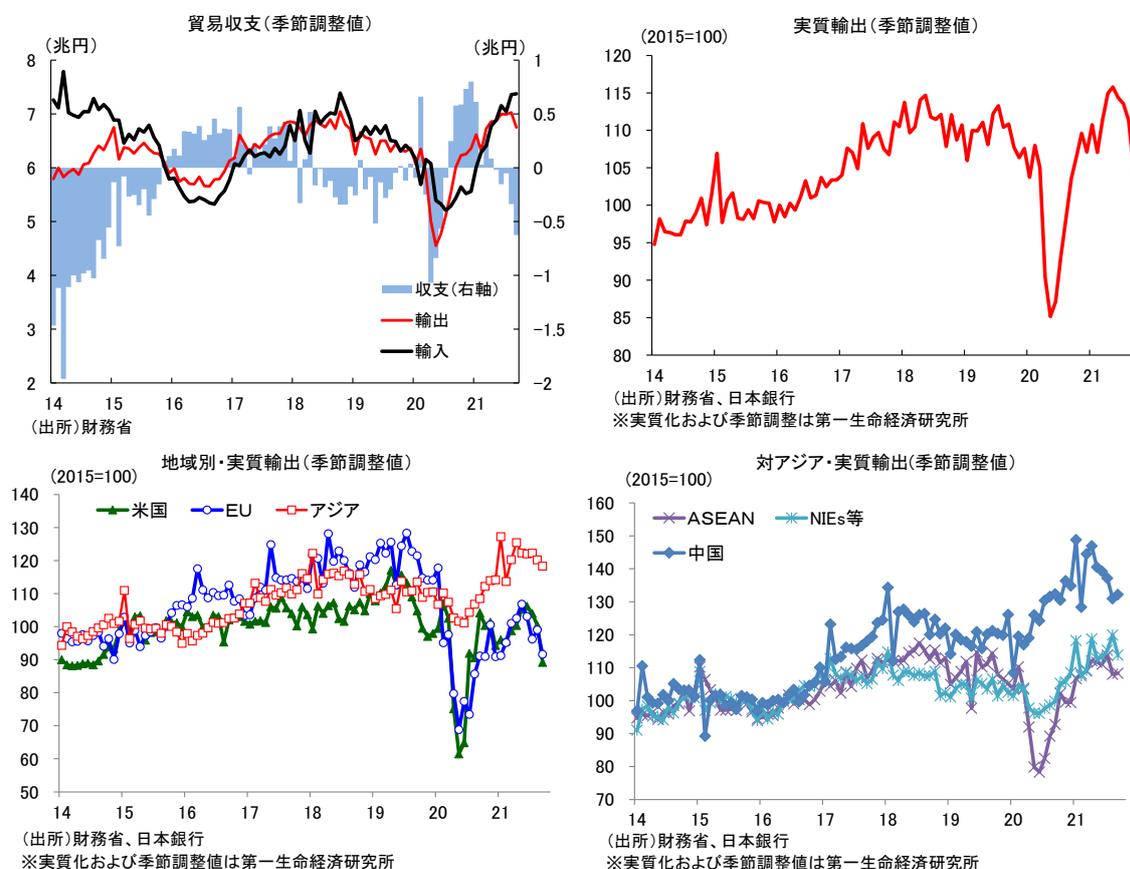
押し下げた。

7-9月期の内訳を国・地域別にみると、米国向けが前期比▲5.9%（4-6月期：同+7.4%）、EU向けが前期比▲8.2%（4-6月期：同+8.7%）、アジア向けが前期比▲2.4%（4-6月期：同+2.4%）、うち中国向けが前期比▲6.2%（4-6月期：同+1.2%）となった。米国向けについては、輸出に占める自動車の割合が大きいため（20年度実績：27.5%）、8月、9月の自動車減産の影響が強く出る結果となった。海外の景気回復基調の強まりから、資本財や情報関連財については好調さを維持しているものの、全ての地域で自動車の落ち込みが大きく、輸出全体では停滞感が強まっている。

○輸出は自動車生産の回復を待って増加基調が続く

9月の輸出は、供給制約による自動車輸出の減少が続き、輸出全体が大きく押し下げられた。自動車メーカーの計画では、10月も減産が続く見込みで、目先の自動車輸出の下振れは続くだろう。もっとも、11月の計画では減産幅が縮小し生産水準が回復する見通しで、計画通りに生産が続けば自動車輸出も徐々に水準を戻すだろう。海外での景気持ち直しにより、資本財や情報関連財輸出が好調を維持していることから、自動車生産の回復を待って輸出は回復基調に復帰するとみられる。

輸入については、当面は既往の原油高を反映して高水準での推移が見込まれる。足元のドバイ価格は80ドル/バレルまで急上昇しており、エネルギー関連での輸入物価の上昇が続くことで、輸入は高い伸びが続くだろう。また、政府の方針では、早ければ12月から3回目のワクチン追加接種が実施されることも想定されるため、今後ワクチン調達が加速する可能性もある。しばらくは輸入の伸びが輸出を上回ることにより、貿易収支は赤字が続くとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。